

週日の説教

金 大烈 神父 2010年3月12日(金)

《二つの掟・信仰の基準》

おはようございます

イエス様は、第一の掟は何だとおっしゃいましたか。

『心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』そして、第二の掟は『隣人を自分のように愛しなさい。』(マルコ 12・29-31) 皆様は、第一の掟と第二の掟について、よくご存知ですよ。

私は、今日の福音(マルコ 12・28b-34)を夕べ黙想しながら、今まで考えなかったことが思い浮かびました。私は司祭として、色々な人々にこの二つの掟が中心になった話を、20年近く話して来たと思います。しかし、自分のことを考えてみますと、「私は神様に、どのように具体的に愛情を表現して来たのか」と、足りなさばかりでした。そして、「隣人を愛しなさい。」というこの掟も自分では覚えていないくらい、数え切れないくらい、沢山話したと思うのですが、では私は「どのように、人々を愛しながら今までやって来たのか」と、考えてみたら自信を失ってしまいました。

さあ、皆分かっています。「神様を愛さなければならない。」この言葉に自信のある方何人いらっしゃいますか。「私は自信があります」という人、いらっしゃいますか。「隣人を愛しなさい。」この言葉について自信のある方は、何人いらっしゃいますか。結局、私達が自分の信仰について、振り返って見る唯一の基準は、この二つの掟だと私は思います。しかし、私達はいつも信仰の生活をしていましてと言いつつも、この二つの言葉に直面して、対面してよく黙想することが出来れば、多分ほとんどの人が、聖人と言われる人も、「私は足りないのです。」と言う告白が自然に出るのではないのでしょうか。

皆様、「愛」というものは曖昧になってはいけません。「愛」これは力がある言葉です。その力がある言葉を、曖昧に表現したらそれもよくありません。私達は本当に具体的に神様を愛しているか、その愛する証拠として、印としてなにを見せて来たのかを振り返ってみましょう。また、「隣人を愛しなさい。」その言葉について、私は心を込めて、自分の全存在を賭けて、愛したその人々が、この世の中で何人いるかよく考えてみましょう。そのような反省が出来れば、私達は「今まで唇で信仰の生活をしてきたかな」という思いがするかも知れません。とにかくこの二つの掟は変わらない掟だと思います。結局この二つの掟が基準になって、神様に最後の日に言われると思います。「この二つの掟をあなたはどのようなことをやって表して来たのか」と。

皆様、この二つの言葉をたまにはちょっと重く黙想してみましょう。そうすることによって、私達が聞かなければならない方向が見えるのではないかと考えてみました。

さあ、ある雑誌に載せてあったものを読んだのですが、皆様の助けになるのではないかとって紹

紹介します。

題目は「夫はそばにいてくれるから」。お医者さんだったあるご主人が、バイクの事故で亡くなったのです。事故だったのですから、当然加害者がいるわけですね。その人を、加害者と言われるその人を、奥さんと、子供達が赦すその過程、そのプロセスについて書かれています。赦しの秘蹟の特集として紹介されたものですが、皆様に読んで頂きたい内容なのです。

私はここに載っていないことを一言だけ申し上げます。彼女は、自分の信仰、今まで歩んできたその信仰によって赦すことが出来たと、その体験を語っていますが、実際に赦すことは、“神様が許さなければ絶対に出来ないこと”です。

これは、彼女が自分の家族、夫と子供と忠実に信仰の生活をして来たので、その中で与えられた“恵み”です。ある日、突然に意思的に「赦さなければならない、ならない！」と思っても、それでは心が動いてくれないのです。ですから私達は、このような文章を書くときに、又読むときに、やはり神様の“恵み”であることを自覚するべきではないかと思ってみました。

ありがとうございました。